



**Data**

監督・美術：キン・フー（胡金銓）  
 出演：シルビア・チャン（張 艾嘉）  
 / シュー・フォン（徐楓） / シー・チュン（石雋） / ティエン・ファン（田豊） / レインボー・シュー（徐彩虹） / トン・リン（佟林） / ウー・ミンサイ（吳明才）

### ■ショートコメント■

◆2017年3月25日にシネヌーヴォでみた『侠女』(71年)、『残酷ドラゴン 血斗竜門の宿』(67年) (『シネマ 39』未掲載) に続いて、キン・フー（胡金銓）監督の『山中傳奇』を鑑賞。しかも、今回は4Kデジタル修復版であるうえ、従来知られていた2時間版とは全く異なる3時間10分にも及ぶ完全全長版だ。

◆主演は『侠女』『残酷ドラゴン 血斗竜門の宿』でおなじみの俳優シー・チュン（石雋）と女優シュー・フォン（徐楓）だが、その他にも、何と近時『妻の愛、娘の時』(17年) (『シネマ 42』178頁) で主演監督したシルヴィア・チャン（張 艾嘉）も主演級で出演しているから、ビックリ！

◆時代は11世紀の宋の時代。戦乱で死んだ者たちの鎮魂のための写経を頼まれた若き学僧、雲青（シー・チュン（石雋））は崔という男に案内されて、山奥の城壁にある廃屋へ。近所に住む世話好きの王夫人がその夜、雲青を宴席に招き、妖艶で美しい娘・楽娘（シュー・フォン（徐楓））を見合わせたが、実はこの楽娘は・・・？

◆『侠女』も『残酷ドラゴン 血斗竜門の宿』もいわゆる中国流“武俠映画”のハシリとされたもの。「ウォン・カーウアイの『楽園の瑕』(94年) (『シネマ 5』231頁) も、アン・リーの『グリーン・ディステニー』(00年) もホウ・シャオシェンの『黒衣の刺客』(15年) も、もしもこの人がいなければ作られることはなかっただろう」と言われている。したがって、本作も当然その系列・・・？

◆私はそう思っていたが、実はそうではなく、本作は妖怪ファンタジーだ。したがって、美しい娘・楽娘は、導入部を過ぎると突然妖怪に大変身！また、楽娘の本性がわかった時点で、居酒屋の美しい娘の依雲（シルヴィア・チャン（張 艾嘉））が登場し、雲青を助けることになる。この依雲は清楚で可憐な娘だったが、実はこの依雲も・・・。

◆『侠女』も『残酷ドラゴン 血斗竜門の宿』もド派手な武侠映画だったから、そこでは激しい立ち回りが見モノだった。しかし、妖怪モノの本作では、何と太鼓や笛、シンバル等の楽器が武器になる。本作はミュージカル映画ではないが、依雲が激しくかつリズムカルに打ち鳴らす太鼓にはどんな力が・・・？また、それに対抗すべく道士は、いかなる楽器を、いかなるリズムで鳴り響かせるの？

なるほど、キン・フー（胡金銓）監督には武侠映画だけでなく、こんな映画作りの側面も！

2018（平成30）年12月21日記